

令和4年度 小規模多機能型居宅介護 よりそいホーム 総括表

| | | | | | |
|------|---------------|-----|-------|-------------------|---|
| 法人名 | 社会福祉法人 秋桜会 | 代表者 | 三島木 健 | 法人・ 事業所 の特徴 | 職員と利用者が「介護する側、される側」という関係ではなく、共に過ごす時間を大切に、今「何に困っているのか」に着目して支援している。小規模多機能型居宅介護のメリットが十分に活かすことができるよう一人ひとりの生活に合わせた柔軟なサービスを提供している。急な泊まりの追加などサービス変更にも対応している。訪問では安否確認、健康観察、内服確認、配食等、必要な支援を見極めて援助している。 |
| 事業所名 | よりそいホーム | 管理者 | 筒井 慈子 | | |

| | | | | | | | | | | |
|------|-------|----------|---------------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|-----|
| 書面開催 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・ 地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
| | 1人 | 1人 | 3人 | 0人 | 5人 | 0人 | 0人 | 0人 | 人 | 10人 |

| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|-------------------------|---|---|---|---|
| A. 事業所自己評価の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 自己評価できていない点について具体的にどのようなことが不足しているか各自で考察し、次年度の取組みに活かす。 | <ul style="list-style-type: none"> 単に「できている」「できていない」の結果だけで判断せず、具体的な改善すべき点を自己の取組みの中で意識した。 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において感染を防止しながらケアを行うことは職員の努力によるものと評価したい。 様々な制限がある中でできることを工夫しながら日々取り組む姿に感謝する。 毎年、この自己評価を行うことで振り返りができていると思う。 自分が行っていることを見直す意味を理解して取り組んでいて素晴らしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 常勤以外の職員の意見を今以上に積極的に採り入れていく。 具体的な取組みを毎月のスタッフ会議で確認する機会をもつ。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大予防の対策を継続する。 老朽化に伴う不具合に対して、計画的に修繕が必要な部分を見極め改善していく。 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策に配慮した環境整備に努めた。 開設14年経過し、トイレの交換、給湯器の部品の交換を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染対策を十分に意識した環境づくりができていると思う。 部外者の入室に制限があり評価がしにくい点もあるが、見学して、利用者は生き生きと生活していると感じた。 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染対策を継続しながら段階的に制限を緩和していく。 |
| C. 事業所と地域のかかわり | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の時代に合わせたPR法を考え、小林・本埜地区の住民に対して、「よりそいホーム」を知っていただく機会を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃から地域包括支援センターと連携し、利用相談が多数あり、困りごとに対して迅速に対応した。 地域のイベントは制限があったが、屋外の人混みの少ない場所には気分転換に外出した。 | <ul style="list-style-type: none"> 交流が困難な状況であり、「地域交流」の評価項目が適切なのか、仕方がないのではないかと思う。 長寿会などの集まりも中止で、地域高齢者の状況の把握ができなくなっている。 コロナが収束したら様々な交流が再開できるとよい。顔を合わせることが大切と実感している。 重度の方は地域との交流が難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染対策の影響で利用を控えていたような方が、円滑に相談、利用ができるような体制づくりに努めていく。 感染対策に配慮しつつ、地域との関わりの場を検討し、地域交流を再開する。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | <ul style="list-style-type: none"> 情報収集を行い、コロナ禍の影響や動向をみながら、少しずつ地域参加に向けた活動を検討する。 交流が途絶えてしまった関係機関と、感染症対策に配慮した上で交流する機会を確保する。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域参加の活動は中止であったが、感染予防を徹底しつつ、外気に触れる機会を設けた。 社会福祉協議会や団地の管理事務所など本人の暮らしを支える関係者と情報共有できた。 | <ul style="list-style-type: none"> 「地域」というワードはコロナ禍において設問が適切であるのか。状況に応じたものになっていない。 コロナの感染状況に応じて、以前のような交流が図れるとよい。 | <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策に配慮しながら、地域イベントの参加や外出の機会をつくり、地域交流を復活させていく。 地域団体との交流も方法を検討しながら実施できるよう関係性を保つことに意識する。 |
| E. 運営推進会議を活かした取組み | <ul style="list-style-type: none"> 書面開催では活発な意見交換が難しいため、可能な限り参集形式で実施していく。 コロナ禍で見えてきた新たな課題などをテーマにして、皆さんからの客観的な意見をいただく。 | <ul style="list-style-type: none"> 書面開催であったが、委員の方々からの客観的な意見をいただき、防災訓練の方法などの見直しに活用できた。 地域の課題の抽出につながるアドバイスをいただいた。 | <ul style="list-style-type: none"> 書面開催が中心となったが、事業所の取組みや地域資源の提示など分かりやすい資料で知識を得ることができた。 実際に利用者で交流する機会ももてず、委員としてわからない部分もある。 事例検討については個人情報の関係もあり、積極的に運営推進会議で取り扱いが難しいことがある。 参集が可能になれば委員の考えや疑問点も共有でき、さらに改善につなげることが期待できる。 | <ul style="list-style-type: none"> 参集できる状況になれば、さらに活発に意見等をいただき、改善につなげていく。 よりそいホームが地域資源として、住民に活用してもらえるよう運営推進会議を有効に活用していく。 |
| F. 事業所の防災・災害対策 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な制限が緩和された時には運営推進委員の方々、地域住民に訓練の参加を呼びかけていく。 消防署の協力を得て、コロナ禍を想定した防災訓練の方法等を検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> 火災、地震、水害を想定した防災訓練を職員と利用者のみであったが定期的実施した。 感染対策により、委員や地域住民を交えた訓練はできなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でやむを得ないと思うが、防災訓練を運営推進委員や地域住民を含めた定期的な参加を今後は検討できるとよいと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 防災訓練は繰り返し実施しているが、新人職員もいるので練度を上げていく。 感染症対策の状況に応じて地域の方の参加を検討するとともに、BCP（事業継続計画）の策定を行い、緊急への対応力を強化する。 |